



明化の教育

7月号 (第458号)
平成30年6月29日
文京区立明化小学校
校長 溝畑 直樹

行動から物事が始まる

校長 溝畑 直樹



左の写真は、今年度から始めた新しい取組『学級の本棚』第1号、6年1組が作った『学級の本棚』です。本校ではこれまでも読書活動を大切にしてきました。保護者・地域の皆さまには『本読み隊』の読み聞かせ活動にもご協力をいただいています。



この『学級の本棚』は、図書室の本の中から、自分のお気に入りの一冊を選び、自作のポップ(本の紹介カード)を付け、クラスごとに2週間図書室に展示するというものです。本校の子供たちは読書量は多いのですが、「自分のお気に入りの一冊がありますか」となるとどうでしょう。何度も読み返したくなるほど大好きな本に出会えることは、本当に幸せなことです。そして、その本のすばらしさを他の人と共有

できたなら、どんなに嬉しいことでしょう。

『博士の愛した数式』の作者でもある小川洋子さんは「物語の役割」についてこう書いています。《現実を記憶していくときでも、ありのままに記憶するわけではなく、自分にとって嬉しいことはうんと膨らませて、悲しいことはうんと小さくしてというふうに、自分の記憶の形に似合うようなものに変えて、現実を物語にして自分の中に積み重ねていく。そういう意味で言えば、誰でも生きている限りは物語を必要としており、物語に助けられながら、どうにか現実との折り合いをつけているのです。》本をたくさん読む子、物語に親しむ子は現実の世界でも、自分の周りに起きるさまざまな出来事と折り合いをつけて生活していけるたくましい力が身に付くのではないかと考えます。学校におこしの際は、どうぞ図書室にもお立ち寄りいただき『学級の本棚』をご覧くださいければ幸いです。

道徳科の授業を見ていると、子供の発言に驚かされることがあります。この文章のタイトルにした『行動から物事が始まる』は5年生の言葉です。社会正義をテーマとした学習で、《誰もがいじめに対して目をそむけている時、「いじめはいけないことだ」とクラス全員に語りかけた勇馬君》の話を読んだ後、「勇馬君がクラスみんなに語りかけたのはどんな気持ちからか」という先生の問いに対する答えの一つが『行動から物事が始まる』です。発言した子供の力強く、きっぱりとした意志を感じさせる言葉です。

また、4年生の親切・思いやりをテーマとした学習ではこんな言葉もありました。『相手への思いやりがなければ、親切とは言わない』これも子供が親切・思いやりについて、深く考えた中から出てきた言葉です。体の不自由な方、高齢者、その他サポートを必要としている方は、たくさんいます。しかし、自分勝手な思い込みで、まして「かわいそう」という憐みの気持ちから手助けをすることは、決して親切とは言わないこと。「私はどんな時も相手に寄り添い考えていきたい」という気持ちが溢れているすてきな言葉です。人権教育に重点的に取組み始めて1年が過ぎました。こうした子供たちの言葉から研究の確かな手ごたえを感じる毎日です。